

○子宮纖維性筋腫ト多房性卵巢巢囊腫併發症ノ一例 (承前)

醫學得業士 越野義三郎

(譯金)

腫瘍ノ所見ハ腹部ノ觸診及手術ノ條下ニ於テ畧述スルニヨリ其大體ヲ推測シ得ルナランモ茲ニ顯微鏡的所見ト共ニ肉眼的所見ヲ述ヘン

子宮纖維性筋腫肉眼的所見 其色部位ニヨリテ濃淡アリテ淡紅色ナルアリ暗紅色ナルアリ表面滑澤ニシテ凹凸硬固何レノ部モ一様ノ硬度ヲ有ス形狀ハ隋圓形ナルカ前下方ニ四個、後下方ニ四個ノ突起アリ硬度色澤又大腫物ト同シ大サハ鷲卵大ヨリ鳩卵大ナリ腫物全量ハ二千六十八グラム、高サ十二仙迷縱徑二十四仙迷、橫徑十四仙迷、最大周徑五十一仙迷、最小周徑十五仙迷ヲ有ス腫物ヲ割斷スルニ外圍ニハ厚キ強硬ナル「カプセル」ニテ圍繞セラル内部ハ黃白色ヲ呈シ比較的軟ナリ突起物モ又同一ノ所見ニシテ「カプセル」ハ剝離シ易ク腫瘤ノ子宮ニ附着スル部ハ「カプセル」缺損シ其面粗糙トナル

右卵巢巢ハ肥厚スル廣韌帶ト共ニ大腫物ニ膠着ス大サ及ヒ表面上變狀ヲ認メサルカ切斷スルニ其中央部ニ當リテ殆ント帽針頭大ナル囊腫ノ形成ヲ見ル其壁ハ周圍組織ヨリ硬ク黃褐色ニシテ喇叭管ハ肥厚シ大腫物ノ後下面ニ癒着ス

左卵巢巢肉眼的所見 形狀ハ手術中其内容ヲ出タスニヨリ精確ナル形狀ヲ知リ能ハサルカ左

腹部上腹部ニ牽滿シテ存在シ子宮ノ腫瘤ヲ包圍セシナラン囊腫壁ノ表面ハ僅ニ凹凸アリテ内面ニ小囊腫ノ存在ヲ証ス黃紅色ニシテ大小不同ノ血管走ルヲ見ル壁ニハ自開孔ニアリーハ左下方ニ、一ハ上後方ニアリ其創口ノ大サハ何レモ二錢銅貨大ニシテ創縁ハ暗赤色、肥厚シ炎症症狀ヲ呈シ極メテ不正トナリ組織頽廢物ヲ附着ス内面ニハ多數ノ小囊腫簇生シ己ニ破裂シテ其痕跡ヲ殘スアリ或ハ新舊不同ノ囊腫ナルアリ壁ノ厚サ二仙迷一〇五仙迷ノ間ニ出入シ莖部ハ厚サ二仙迷、巾八仙迷ナリ黃白色ニシテ硬ク大小血管腫物上ニ走ル喇叭管ハ囊腫ノ後下方ニ附着シ剪綵ハ肥大シテ囊腫ノ右方ニ小突起トシテ顯ハル

顯微鏡的所見 此標本ハ「フォルマリン」「アルコホル」ニテ固定シ「ヘマトキシリン」「エオジン」重複染色ヲナシタルモノナリ

子宮纖維性筋腫鏡見 圓形長卵圓形ノ核ヲ有スル滑平筋細胞及ヒ結締組織細胞ヨリナリ諸處ニ血管ヲ目撃ス「カプセル」ハ緻密ナル結締組織ヨリ形成セラル諸突起物モ同一ノ造構ヲ有スルニヨリ零ス

右卵巢所見ハ主ニ滑平筋纖維ヨリナリ結締組織細胞ヲ混ス場處ニヨリ結締組織細胞ノ多少アリ大小不同多クノ血管及ヒ黄体ノ存在ヲ見ル前記ノ小囊腫ヲ鏡見スルニ綿密ナル結締組織ヨリ圍擁セラレ乳嘴狀ヲ呈ス内容ハ粘液性ニシテ其一部ヲ充タス

囊腫壁ノ鏡見 壁ハ結締組織ヨリ成リ其外圍ハ結締組織粗大ナリ中央ノ諸處ニ小圓形細胞浸潤アリテ擴張スル血管ヲ見ル

本病ノ如キ子宮纖維性筋腫ト卵巢囊腫ノ合併症ハ實地上目撃スルヲ屢々アリ且ツ治療上ニモ一汎腫物ノ剔出ト異リタル點ナク格別ニ興味アルニアラサルモ兩腫瘍頗ル大ニシテ術後良經過ヲ取リシト卵巢病患ト子宮疾病ト相關聯スルモノタルノ一例ヲ舉ケテ參考ニ供セシノミ本稿ヲナスニ當リ恩師小川教授小西講師ノ甚ナカラサル便宜ヲ與ヘラレタルヲ深ク謝ス



漫 録

○旅行私信 ノハ十口生

此編はノハ十口生より小川教授に送られたる通信なるが同教授の許諾を経て之を本欄に収録することとせり (編者)

百間一見に如かずげに旅は生きた學問なり、去月十日頃村上、宮田兩教授か白山登行を企てられたる折切に「行せんと思ひしも徒らに其非番ならざりしを啣つのみなりき、偶北國紙上歸省中の早稻田大學生富山縣人

百餘名が大舉して北陸三縣の歸京學生を誘ひ、八月下旬より九月上旬の間に有名なる佐々成政のザラ／＼越と嶮峻なる針木峠を踰ゑ信州に出て歸京するの報を寶らせしを以て、生平の鬱をやり脾肉の嘆を充すの機いたれりとし、在富山の文科大學生某々等々深く其無謀と危險なることを誡むるをも聞かず直に發起者なる立山村字岩嶺佐伯氏が許へ同行を申込みぬ、越へて本月一日いよいよ出發の日は來りぬ、集る者聊に六人云く早稻田大學政治科生佐伯、松井、田邊氏東京商船學校航海科生西島氏東京帝國大學工科大學造船科生寺島氏